

令和4年度 経営改革プラン

団体名	神戸新交通株式会社	
設立年月日	昭和52年7月18日	
団体の設立目的・沿革	<p>昭和51年度に策定された第2次神戸市総合基本計画において、都市の環境と調和し、都市構造と一体となった安全、便利で快適な市民交通機関の整備を図るため、鉄道を大動脈、バスを毛細血管、そのギャップを埋めるいわば中動脈の役割として新交通システムが位置づけられた。そのような中、当社は海上都市ポートアイランド、六甲アイランドと市街地の主要ターミナルを連絡するポートアイランド線、六甲アイランド線を運営する目的で設立された。</p> <p>〔沿革〕</p> <p>昭和52年 神戸新交通株式会社設立 昭和56年 ポートアイランド線（ポートライナー）営業運転開始 平成2年 六甲アイランド線（六甲ライナー）営業運転開始 平成18年 ポートアイランド線延伸線（ポートライナー）営業運転開始</p>	
団体の主な事業内容	事業名	所管課
	鉄軌道事業	都市局公共交通課
	不動産賃貸業	自主事業
代表者	代表取締役社長 岸田 泰幸	

役職員数 (令和3年7月1日時点)	取締役		監査役		職員		合計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	有期	無期	
団体固有職員	-	-	-	-		170	170
市派遣職員	1	4	-	-		2	7
市OB職員	2	-	-	-	-		2
その他	-	4	1	2	28	9	44
合計	3	8	1	2	28	181	223

財務状況（単位：百万円）	令和2年度	令和元年度	差引
経常損益	△ 1,015	762	△ 1,777
税引後当期純利益	△ 1,501	494	△ 1,995
販売費及び一般管理費	314	371	△ 57
流動資産	5,245	5,199	46
流動負債	3,747	2,759	988
固定負債（長期借入金）	22,220	22,538	△ 318
期末現金預金残高	3,545	3,647	△ 102

■中長期的なミッション（神戸市行財政改革方針2025期間中のミッション）

ミッション①	ポートアイランド、六甲アイランドと市街地を結ぶ基幹交通としての役割を果たす
ミッション②	経営改善の取組み
ミッション③	沿線地域との連携強化
ミッション④	新たな需要への対応

■短期的なミッション（令和4年度のミッション）

ミッション①	労務ガバナンス改善行動計画の推進
--------	------------------

■経営指標（令和2年度）

経営指標				令和元年度	令和2年度	前年度比増減
人的 パフ ォー マ ン ス	職員 一人 あたり 純利益	純利益/職員数	職員1名あたりが、どの 程度の利益を上げている か。(百万円)	2.729	▲ 7.941	-10.7ポイント
	経常費用 人件費比 率	人件費/経常費用×100%	経常費用に占める人件費 の割合がどの程度ある か。	23.29%	23.29%	0.0ポイント
財 政 的 パフ ォー マ ン ス	総資本 経常利益 率	経常利益/総資本×100%	経常的な収益性はどの程 度見込まれるか。	2.19%	-3.02%	-5.2ポイント
	流動資産 回転率	売上高/流動資産×100%	流動的な資金が効率的に 運用されているか。	144.18%	101.31%	-42.9ポイント
財 政 安 定 性	流動比率	流動資産/流動負債×100%	短期的な資金をどの程度 確保できているか。	188.43%	139.96%	-48.5ポイント
	自己資本 比率	自己資本/総資本×100%	団体固有の資本がどの程 度あるか。	22.21%	18.48%	-3.7ポイント
持 続 性	自己資本当 期純利益率 (ROE)	当期純利益/純資産×100%	資本を効率的に運用して いるかか。	6.40%	-24.14%	-30.5ポイント
	純資産 増加率	(当期純資産-前期純資産) / 当期純資産×100%	純資産が持続的に増加し ているか。	6.40%	-24.14%	-30.5ポイント

■ ミッション工程表

ミッション名	令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度～					
中長期的ミッション															
ポートアイランド、六甲アイランドと市街地を結ぶ基幹交通としての役割を果たす	安全・定時運行の維持改善														
経営改善の取組み	保守費・経費・設備投資・人件費等を対象に10年総額80億円の経費削減の取組みを実施														
	進捗管理と時点修正			進捗管理と時点修正			進捗管理と時点修正			進捗管理と時点修正					
	R4年度:適正なダイヤの検討														
沿線地域との連携強化	沿線企業等とのイベント共催などの調整・検討・実施														
新たな需要への対応	需要の変化に応じた検討														
ミッション名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
短期的ミッション															
労務ガバナンス改善行動計画の推進	通年で計画を実行														
				上期実施状況の検証 下期計画の策定			コンプライアンス委員会 で検証・評価			今年度の実施状況の検証 次年度計画の策定			コンプライアンス委員会 で検証・評価		

■ ミッションを踏まえた団体目標

目標及び実現方法	目標 (できるだけ達成度を表す 数値目標も記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民にとって利便性の高い交通手段の提供、安全輸送及び定時運行に努める。 ・沿線地域との連携強化による需要喚起や経費削減等により、令和7年度には収支をバランスさせ、黒字化する。 ・市と連携しながら、新たな需要に応じた混雑緩和の取組みや、利用状況に応じた適正なダイヤの検討を行う。 ・外部委員も入ったコンプライアンス委員会(年2回)で労務ガバナンス改善行動計画の進捗及び実効性を検証し、取締役会に報告・提言を行う。
	実現方法	<ul style="list-style-type: none"> ・運輸安全マネジメントを推進する。 ・鉄道安全設備の計画的な更新・補修。 ・10年間で総額80億円の経費削減を行う。 ・島内の協議会や地域コミュニティへの参画を通じて企業等とのコミュニケーションを推進し、地域の活性化に努める。 ・市と連携し、ポートアイランド方面路線バスとの共通乗車社会実験による混雑緩和対策を継続し、協力していく。 ・PDCAサイクルを繰り返すことで、労務ガバナンス改善行動計画を着実に改善・実施していく。

■ 市支援策の活用状況

<input type="checkbox"/> 外郭団体共通内部通報窓口	<input type="checkbox"/> 経営懇談会	<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体職員向け研修	<input type="checkbox"/> 民間代替性調査
<input type="checkbox"/> 専門家紹介制度	<input type="checkbox"/> 経営診断	<input type="checkbox"/> 企業統治状況調査	

■ ミッションの達成状況（団体自己評価）

（1）中長期的ミッションの達成状況

・「ポートアイランド、六甲アイランドと市街地を結ぶ基幹交通としての役割を果たす」ため、令和4年7月に発生した六甲ライナーでの輸送障害を受け、異常対応手順の見直しや代替輸送の確保など障害発生時の早期復旧やSNSを通じた積極的な情報発信などに取り組んでいる。

・「経営改善の取組み」として、実施時期の見直しや機器構成・機能の簡素化などによる施工金額の圧縮等により設備投資や補修等の保守費や経費削減に取り組んでいる。

・「沿線地域との連携強化」として、沿線施設等と企画乗車券を発行するなど、島内への誘客を図り、島内の活性化に寄与した。当社主催イベントでは企業・施設・学校等との日頃の関係を活かして、イベントの活性化を図った。

・「新たな需要への対応」として、神戸空港の国際化に向けた輸送力強化の検討を行っている。

（2）短期的ミッションの達成状況

・労務ガバナンス改善行動計画を着実に遂行するとともに、コンプライアンス委員会における検証・評価を踏まえ、次年度計画に反映させた。また、中長期的視点で計画的に人材育成を進めていくために人材育成基本計画を策定するとともに、事務処理の効率化を図るため給与支給事務等のアウトソーシング化を行った。

（3）市政への貢献・市民への還元状況

・安全輸送、定時運行に努め、新たな需要への対応や沿線地域と連携した取り組みを推進している。

■外郭団体マネジメント推進本部の評価

(1) 総合的意見

各ミッションにおいて、目的の実現に向けた取り組みを着実に実施している。なお、ガバナンスについては、より一層の改善のため、従来の慣行も含めて問題がないか確認し、市と連携して更なる改善を図ることを求める。

(2) 数値目標の状況

評価項目	評価・指導
中長期的ミッション	市民の足を支える公共交通機関としての役割を果たしつつ、経営改善、沿線地域との連携強化、新たな需要への対応に取り組んでいる。輸送障害時の対応の見直しなど、引き続き輸送安全の確保に向けた取り組みを進めること。
短期的ミッション	労務ガバナンス改善の取り組みとして、計画を着実に進めているが、より一層の改善のため、従来の慣行も含めて問題がないか改めて確認し、市と連携して更なるガバナンスの改善を図ること。
団体目標	コロナ禍の厳しい事業環境の中、令和4年度は黒字を確保している。引き続き経営改善の取り組みを進めること。
市への貢献・市民への還元状況	市民の足を支える公共交通機関としての役割を果たすとともに、沿線地域との連携により、市と連携した沿線のまちの活性化に貢献している。

(3) 今後の方向性

団体の存廃も含めた検討を要する団体

継続的な見直しを要する団体

取り組みが着実に実施され成果が上がっている団体